

2024年度「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名：CROSS BUILD

活動名：CROSS プロジェクト

★ 団体紹介（結成時期、構成メンバー、結成の目的、活動方針等）

< 結成の時期・目的 >

大学の研究室(ゼミ)で観光地域づくりを学び、フィールドワークを実施する中で、県内各地の地域振興への興味が沸き、大学生としてできることがあれば積極的に行いたいと考え、2022年11月に団体を結成しました。

< 活動方針 >

自団体で企画するフィールドワークやセミナーの他、県内各地で開催される大学生を参加対象としたワークショップや地域づくりイベントボランティア等への派遣等を行い、県内の様々な大人(社会人)と大学生が交流する場づくりを行います。大学生が社会に出ていく前のステップとして、地域の実情を知り、多様な考え方に触れる機会を創出し、大学生が多様な考え方から自分が納得のできる生き方を見つけることにも寄与する取組とします。

< 構成メンバー >

13名(安田女子大学 学生11名、会計・顧問として教員2名)

★ 活動内容（実施日、場所、目的、内容、参加人数等）

○ 自主企画(フィールドワーク)

・各地のキーパーソンへのヒアリングや現地調査による地域課題の抽出(当初目標のべ15名参加)

日時	内容	参加者数
4月21日	島根県津和野町 FW	4
6月8日	島根県津和野町 FW	4
6月23日	広島県三次市 FW	5
8月7日	広島県竹原市 FW	2
9月29日	しまなみ海道 FW	3
10月9日	江田島 FW	3
11月15～16日	尾道・瀬戸田まちづくりワーク	6
合計	7回	のべ27名



津和野町取組体験 (6/8)



竹原市フィールドワーク
Nipponia 訪問 (8/7)



尾道市まちづくりワーク
いっとく山根氏講話 (11/15)



瀬戸田町フィールドワーク
Farm&bed 松村氏講話 (11/16)

○自主企画(セミナー)

・各地のキーパーソンや専門家を招いたセミナーの実施(当初目標のべ 80 名参加)

日時	内容	場所	参加者数
4月26日	継ぎ矧ぐ 01 異種格闘技	port.cloud(広島市中区)	16
5月28日	継ぎ矧ぐ 02 バックパック起業家	kitokoi(広島市中区)	19
7月2日	継ぎ矧ぐ 03 働く女性のWL	port.cloud(広島市中区)	16
9月24日	継ぎ矧ぐ 04 キャリアの再発見	Camps(広島市中区)	16
11月16日	継ぎ矧ぐ 05 軀の浦	ありそろう(福山市)	13
合計	5回		のべ 80 名



継ぎ矧ぐ 01 (4/26)



継ぎ矧ぐ 02 (5/28)



継ぎ矧ぐ 03 (7/2)



継ぎ矧ぐ 05 (11/16)

○地域づくりイベント・ワークショップへの派遣

・学生アイデア等が期待されている各地のイベント・ワークショップ等への派遣(当初目標のべ 15 名参加)

日時	内容	場所	参加者数
4月15日	コモンズピースサミット	叡啓大学(広島市中区)	4
5月14日	HYPP CAFE the 1st	50/50(広島市中区)	2
7月18日	あえるひろしま	port.cloud(広島市中区)	4
8月2日	宮島たのもさん勉強会	三国屋(廿日市市)	2
9月1日	宮島たのもさんワークショップ	三国屋(廿日市市)	6
合計	5回		のべ 18 名

★ 実施に伴う効果 (どのような社会貢献ができたか。自らの成長は。)

<社会貢献>

広島県の2022年の「転出超過」(転出者数から転入者数を引いた数)は9207人と前年より28.6%も増加し、2年連続で都道府県別ワースト1となるなど、広島県からの人口流出が課題となっています。今回のCROSSプロジェクトでは、広島県内の大学生の地元就職率を高めることを目的に、様々な広島県内及び周辺地域の大人(社会人)と大学生が交流する場づくりを行いました。参加した学生はのべ125名に上り、それぞれが地域の実情を知り、多様な考え方に触れることができました。具体的な効果として人口流出を防ぐことができたかは現時点では不明ですが、広島に愛着(シビックプライド)を持つことができ、また地域と関わりたい学生がいることを社会人の方々に認知していただけたことは大きな成果だと思います。

<自らの成長>

フィールドワークやセミナーなど、学外での事業を自ら企画、実施できたことは、大きな成長につながりました。例えば、継ぎ矧ぐ05(セミナー)では、広島市内ではなく鞆の浦に実際に行き、地域の方々と直接関わったことで、人との偶然の出会いや人とのつながりの大切さを学びました。地域の雰囲気や人の温かさを肌で感じることで、自分の視野や価値観が広がりました。また、企画を考えるだけでなく、交通手配やスケジュール管理などの運営面も自分たちで行うことができたのはとても貴重な経験になりました。イベントを成功させるためには、当日の進行だけでなく、事前の準備や細かい調整が重要だと実感しました。限られた時間や予算の中でスムーズに進行できるよう工夫したことで、計画力や調整力が身につきました。また、参加した学生の意見を通じて、新しいアイデアや視点を得ることができました。

★ 苦労した点、今後の課題、発展の方向性など

<苦労した点、今後の課題>

今回のCROSSプロジェクトは、計画時点から「自分たちのやりたいこと」を申請していたことから、フィールドワークやセミナーなどの企画についてはあまり苦労することがありませんでしたが、実施段階において、特にセミナーの参加者募集という点は課題として挙げられると思います。毎回、企画が最終的に確定するタイミングが遅く、フライヤーを作成しましたが、周知する時間が足りない状況となりました。そのような中、知り合いだけで実施するのではなく、下級生の参加があり、また参加した下級生が次の企画を行うなど、企画側のスタッフが増えたことは良かったと思います。

また、「若者×ツナグバ」活動としてワカツナフェスタの企画をする必要があり、もう1団体と話し合いを行いました。当初はどのように進めていけば良いか分からず、少し苦労しました。方向性が決まってからはスムーズに進めることができたと思います。

<発展の方向性>

今年度は「若者×ツナグバ」活動として助成金をいただくことにより、多くの活動を行うことができました。特に鞆の浦での取組等は自分たちだけではできないものだったと思います。今後は継続性の確保という観点から取り組みごとに参加費を徴収し、自立した活動へと発展していくことを考えています。

★ 若者×ツナグバへの提言 (改善につながるヒント、要望)

今年度の「若者×ツナグバ」活動は2団体での実施となり、参加者同士で高め合うという形にできなかったと思います。もっと同時期の活動団体が増えることで、相互に刺激し合うことができると思いますので、活動団体数の増加を今後の要望とさせていただきます。